



No.847 2022年
6月6日

国鉄労働組合東日本本部
港区新橋5-15-5 交通ビル7F
発行責任者 伊藤 隆夫
編集責任者 常盤 達雄

エルダーも
プロパー若手も
ベテランも
みんなで取り組む
組織拡大

JR東日本に2.7ヶ月+5万円要求提出!

組合加入で「声」を上げよう!

コロナ禍でJR東日本の業績は大幅に悪化し、2年連続の赤字計上となりました。こうした中で、期末手当の大幅な減額や、昨年4月の定期昇給半減など、社員は我慢の2年間を強いられました。

JR東日本は「お客様の利用は100%には戻らない」として構造改革を進め、本社・支社の再編成や統括センター・営業統括センターの設置、設備関係職場での組織の再編成などが矢継ぎ早に実施されようとしています。各職場ではこの危機を乗り越えようと、これまでにもましてコスト削減・増収活動に取り組んでいます。この2年間、社員の収入は激減し、加えてウクライナ情勢や気候変動等により光熱費の上昇、食糧価格の上昇から急激な物価高騰が社員の生活を直撃しています。

要求提出

JESS
2.5ヶ月+2万円

LiViT
2.5ヶ月+5万円

国労東日本本部は5月13日、JR東日本に対し、「2・7ヶ月」に、コロナ禍での仕事に対する労苦に報いるため、社員一律5万円の支給を求めることを中心とした「2022年度夏季手当等に関する申し入れ」を行いました。

各社員が今後も安心して業務に奮闘するには、夏季手当の増額が必要です。また、JR東日本に見切りをつけた若年退職の増加も報告されており、鉄道の技術継承の観点からも危機感を持つべきです。鉄道を、不人気業種にしないためには、支給額の大幅増額を求めます。

なお、東日本本部はJESSに対しては5月26日に、LiViTに対しては5月27日に左記の内容で要求を提出しました。今後、各社との交渉に全力をあげていきます。

**鉄道の安全を
持続可能に
するために**

【コロナ禍での回答推移】

	JR東日本	JESS	LiViT
19年夏季	2.91ヶ月	2.2ヶ月+1万円	2.12ヶ月
20年夏季	2.4ヶ月+5千円	2.15ヶ月+2万円	1.8ヶ月
21年夏季	2.0ヶ月	2.1ヶ月	1.2ヶ月



国労水戸地方本部は、5月24日に地本会議室において、JESS職場学習交流集会を開催し、エルダー社員や若手正社員など26名が結集しました。開会にあたり、水戸地本・埼委員長は「多くの駅がJESSに移管され、1人や2人で業務をしている。JESS移行後も更に入減らしがされ、労働条件も厳しい。今日は職場の状況や不安な点を教えてほしい」などのあいさつがされました。

続いて東日本本部・常盤執行委員からは、最近のJESS本社との交渉状況や、東京地区のJESS職場の報告がされました。

来賓のJESS・U・池田委員長からは「月1回、組合員が集まって交流。その中身を会社によ

水戸地本

**JESS職場
学習交流集会**

5/24

一人勤務は不安です

つけている。設備改善要求や、助勤に伴う制服の増配の希望が多い」などのあいさつがされました。

交流は、JESS土浦管区で職場代表者を務めた松田さんからの取り組み報告から始まり、各職場からの報告では「休憩時間には携帯を持たされ、休んだ気分にならない。夜の食事で麺類は食べない」「業務幅そうの中、Suicaの手続きをしていたら、あわてて間違ったカードを登録してしまつて問題に」「一人では女性社員は特に不安だと思ふ。会社は社員の安全をどう考えるのか」「非常通報ブザーがあるが、押して警察到着まで30分かった」「防犯という観点で、会社は旅客からの暴力などの対応をどう考えているのか?大きな不安である」「お客様を置いて、自分が逃げるわけにはいかない」など、一人勤務体制への不安が多く出されました。

交流会の最後に、水戸運協・菊池議長から「水戸支社が話を聞いてくれるので、現場の声を投げかけてきた。このような場を設けられるのは今のうち。今後のために、若い方々ともっとつながりを持ちたい」とまとめがされ、次回の交流会開催が提起されて終了しました。

続く反戦平和への取り組み

参議院選挙勝利で

改憲の流れを止めよう!

いま、政府・自民党はウクライナ情勢から国民に危機感をあおり、軍事力強化、憲法改憲に向けた動きを強めています。国労東日本本部は東京で開催されたさまざまな護憲・平和への取り組みに参加してきました。

4月16日、亀戸中央公園において、「福島原発事故から11年 さよなら原発首都圏集会」が開催され、フクシマからの現状報告、JR錦糸町駅までのデモ行進が行われました。

5月1日には第93回日比谷メーデーが日比谷野外音楽堂で開催されました。



5・1 日比谷メーデー



5月3日には、有明臨海広域防災公園において「憲法大集会」が開催され、1万5千人が結集し、国労からも多くの組合員が参加しました。主催者



5・3 憲法集会

代表呼びかけ人・国労東京鎌田委員長は「ウクライナ情勢に便乗した改憲や軍事基地強化に向けた動きに反対し、市民や立憲野党の共闘で参議院選挙に勝利しよう。実質賃金の低下に抗議し、景気回復に向け大幅アップを勝ち取ろう」などの訴えがされ、その後デモ行進が行われ、沿道の市民に大幅賃上げや平和の訴えが続きました。

5月3日には、有明臨海広域防災公園において「憲法大集会」が開催され、1万5千人が結集し、国労からも多くの組合員が参加しました。主催者

あいつで藤本泰成さんは、「今回のロシアも、ナチスドイツも自衛権の名のもとに侵攻を行った。憲法9条を非現実的と言う人に聞きたい。直接攻撃能力を持たせれば、核兵器を持たせれば国民を守るのか。ウクライナの現状は憲法9条の戦争否定の思想が今必要だという事を示している」などと強調しました。その後各政党をはじめ、多くの参加者からの訴えがされ、終了後パレードに移り、お台場の市民・観光客に護憲・平和の訴えを行いました。

東日本自動車協

5/11~12

第33回定期委員会開催!

国労東日本自動車協議会は、コロナ禍で延期していた第33回定期委員会を5月11日、12日に東京地本会議室で開催しました。岩崎副議長の司会でした。始まり、議長に渡副議長を選出し議事に入りました。

丸山議長からは「コロナウイルス感染症の拡大の影響で、特に運輸業は相当のダメージが出ておりJRバス関東・東北においても21春闘及び22春闘の結果からでも明らかのように労働者の勤労意

国会議員会館前行動」が開催され、この行動では、全国から集まった「憲法改悪を許さない全国署名」62万人分が積み上げられ、国会に提出されました。



議員会館前 19日行動

欲をなくすような回答でした。バス関東では若い仲間が見切りをつけ、退職が相次いでいます。現在国労が置かれている状況は、国鉄世代の第2次大量退職期がすぎ、現職組合員は非常に少数となっています。国労運動の継承発展に向けて奮闘してきましたが、一人ひとりがもうひと踏ん張りをもとめか出し切ってもらいたい」と挨拶しました。

続いて東日本本部武田書記長からは、労働組合の現状とあわせ、日本の政治の課題についても報告がありました。その後、兜森事務長からの経過報告、運動方針(案)の提案を受け、質疑に入りました。

各委員からは「IT点呼導入で準備時間が足りない。見直しを検討してもらいたい」「70歳までの雇用の努力義務が出たかどうか」「新東名は東京〜新城間100km/hでも間に合わない。運転時分の見直しをお願いしたい」「賃金安くて食べられない。休日労働では解決にならない」等の発言がありました。

兜森事務長より「コロナ禍で状況が一変した。退職者が沢山でているが会社は、何も考えていな



国労東日本本部自動車協議会 第33回定期委員会

これからの医療の進歩を見据え、「生きるためのがん保険」を新しくします。

アフラックはがん保険契約件数 No.1

NEW/ 生きるためのがん保険 Days 1

NEW/ あなたの保険を最新化 生きるためのがん保険 Days 1 プラス

アベニール株式会社
〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3階
TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

アフラック 東京第二法人営業部
東京都港区新橋5-11-11 新橋三井ビル3F
TEL.03-3344-1429 FAX.03-3344-2658

新役員体制

【議長】 丸山 淳一 (中央道支店)

【副議長】 加藤 秀一 (東京支店)

【副議長】 岩崎 宏 (青森支店)

【事務長】 兜森 秀昭 (スワロートツアール青森)

い。将来の不安が大きい。このような時こそ労働組合が頑張っていくしかない一人ひとりが性根をすえて乗り越えていこう」と集約答弁がされ、最後に岩崎副議長の閉会挨拶があり委員会は終了しました。(自動車協議会発)